重点施策 博物館活動の充実	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">評価実施者</td> <td>所 属</td> <td>美術自然史館</td> </tr> <tr> <td>職・氏名</td> <td>館長 中塚 智勝</td> </tr> </table>	評価実施者	所 属	美術自然史館	職・氏名	館長 中塚 智勝
評価実施者	所 属		美術自然史館			
	職・氏名	館長 中塚 智勝				

重点施策の概要	目 的	道内の博物館や美術館と連携し、様々な特別展や個性豊かな普及事業を開催するとともに、タキカワカイギウや岩橋英遠など収蔵資料の研究や関連資料の収集を進め、地域博物館としての役割を充実します。
	今年度の主要事業	①特別展の開催「虹を旅する～生誕110年 岩橋英遠展」滝川人造石油物語」「フィールドワーク@美術館」「夏休み！がっちり描きましょう」 事業費 4,375千円 ②普及事業や教育普及活動の実施「月イチリカ室」「わくわくサイエンス」「出前講座」など 事業費 551千円 ③岩橋ふるさと北辰振興会の活動支援と北辰の森・桜並木整備事業の推進 ④年間パスポートの利便性の向上 ⑤北海道人造石油株式会社滝川工場に関する資料の市指定文化財の指定(H25.12.1付け)

		単位	H23	H24	H25	特記事項
			1	入館者数	人	
2	(企画展の入場者数) *入館者数の内数	目標	10,000	10,000	10,300	H24 植物画コレ・カメ展・白い森黒い森・巡回展 H25 岩橋6,803フィールド2,403人造1,135夏休み2,238
		実績	5,412	7,020	12,659	
3	(市内小中学生の入場者数) *入館者数の内数	目標	3,000	3,000	3,000	学校の授業の一環として入場した数 *H25 延べ37校・24 延べ12校
		実績	721	669	2,058	
4	(普及事業の参加者数) *出前講座以外は入館者数の内数	目標	2,000	2,074	2,074	H24デッサン会130人月イチリカ245人わくわく92人 H25デッサン会143人月イチリカ354人わくわく90人
		実績	1,595	1,712	2,665	
5	年間パスポートの発行数	目標	1,300	1,000	1,000	H24一般483高校生4中学生3小学生156 H25一般548高校生2中学生4小学生192
		実績	553	646	746	
6	年パス購入者の再来館回数	目標	1,500	1,500	1,500	平均再来館回数 H24～1.96回・H25～ 2.52回 *購入日も来館回数にカウント
		実績	1,312	1,268	1,882	
7	(学校団体受入生徒数) *入館者数の内数	目標	5,000	5,000	5,000	保育所・小中高生の団体受入数 H24～ 241団体、 H25～189団体
		実績	2,925	5,536	6,211	

事業の分析効果の検証	・入館者数としては、前年比6,551人の増であった。大きな要因としては、生誕110年を記念し開催した岩橋英遠展が前年同時期に開催した企画展より4,214人の増であったことで、こども科学館の入館者も増加した結果となった。また、年間パスポートの有効期間を購入日から1年間とし、利用施設に郷土館を加える改正を行い利用者の利便性を図ったことなどが考えられる。 ・学生などの団体が増えた要因は、市内の小中学生については、岩橋英遠展の観覧を授業の一環として受け入れたことや、他市の小中学生については、B&Gのカヌーと合わせた体験型施設としての受入が学校や旅行会社に認知されてきた効果だと考えられる。 ・また、普及事業については、館のスタッフが学校や児童館に出向いて実験・工作をする、ちいさなはくぶつかん(出前講座)の参加者が1,069人(前年252人)と大きく伸びた。今後再来館につながるこの事業を積極的に展開し館の魅力を伝えていきたい。 *出前講座の参加者数は入館者数には含まない

課題	・開館30年となる平成28年度に向け、常設展示室も含めたりリニューアルの検討 ・学校との連携強化をより一層図り、地域の教育施設としての更なる活用を図りたい

評価	A	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 企画展(前年比5,779人増)や普及事業(前年比117人増)の来館(参加)者数は増えたことにより、結果的に総入館者数も増加となりソフト面での効果が感じられた。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も魅力ある企画展や普及事業を継続して実施し、入館者の増に結びつける。あわせて博物館の使命である収集・保存・調査研究・展示にも取り組んでいきたい。

【評価の区分】

- A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
- B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
- C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
- D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	①文化勲章受章者である日本画家・岩橋英遠芸術と北海道の天然記念物であるタキカワカイギウを滝川市の歴史的な文化を代表するシンボリックな存在として発信し続けていく。 ②こども科学館においては、今後も「月イチリカ室」など身近な科学の実験を通じて子ども達の科学に対する関心や興味を広げる事業展開を図る。 ③ふるさと滝川を「記憶」し続ける方策として「岩橋英遠芸術の振興」「タキカワカイギウを核とした滝川海の再現」「市民ギャラリーの新設」などリニューアルに向けた検討を進めていく。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 ■ 質的向上 □ スピードアップ ■ 検証 ■ 継続

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	特になし